

第5回 小金井市都市計画マスタープラン策定委員会会議録

日 時 平成23年8月17日（水曜日）

場 所 小金井市民会館「萌え木ホール」3階A・B会議室

出席委員 12名

委員長 大村謙二郎 委員

職務代理 森田雅文 委員

委員 相田康幸 委員

雨宮安雄 委員

岡田裕康 委員

阪本文夫 委員

藤井さやか 委員

安達亜紀 委員

稲村和子 委員

鴨下敏明 委員

鈴木忠良 委員

森屋佳子 委員

欠席委員 2名

委員 栗原平三 委員

高橋智 委員

事務局職員

市長 佐藤和雄

都市整備部長 酒井功二

都市計画課長補佐 畑野伸二

都市計画課主事 山下恒夫

都市計画課長 西川秀夫

都市計画課主任 大久保 隆

傍聴者 0名

【酒井都市整備部長】 それでは定刻となりましたので、ただいまから第5回小金井市都市計画マスタープラン策定委員会を開会いたします。

連日の酷暑と節電対策に厳しい夏ではございますが、委員の皆様におかれましては、お忙しい所をお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

3月30日に開催致しました第4回委員会の後、市議会や都市計画審議会への報告、また、地域別構想の改定に向けての市民協議会を開催しております。

本日は、そのご報告と地域別構想の事務局案をご協議いただければと思っております。

それでは、4月に市長に就任した佐藤市長より一言ご挨拶申し上げます。

【佐藤市長】 皆さん、こんにちは。小金井市長の佐藤です。初めまして、という方もいらっしゃるかもしれませんが、存じ上げている方もいらっしゃいます。

先程、紹介にありましたように4月26日に市長に就任しましたが、都市計画マスタープランには、市長になる前にも市民協議会に一度参加させていただきましたが、その時は、参加者数が少ない状況でした。それから、市長になった後も、市民協議会に参加させていただき、参加人数も増えてきておりました。お話を聞いていると、まちづくりというのは広範な話題にわたると、改めて想いを強くしたところです。

この都市計画マスタープランは言うまでもなく、まちづくりの計画の最上位計画ですから、小金井市のまちづくりの方向性を決めていく、大変重要なものであります。

6月の施政方針演説でも申し上げたのですが、この小金井というまちは交通至便な場所にあって、みどりと水が豊かであり、非常に落ち着いているという一方で、市民意向調査を第4次小金井市基本構想の策定にあたって行ったところ、「大変住みやすい」とか「どちらかと言うと住みやすい」というふうに言っていた市民の方は60%程度しかおられませんでした。それから、「永住したい」とか「当分の間住みたい」ということで回答された方は80%しかおられませんでした。その前の調査の平成17年度から比べれば上がっていますが、近隣の市から比べると数ポイントから10ポイント程開きがございます。これ程住みやすい環境、交通至便の地にあって、なぜ満足度が低いのだろうか、というのが私に課せられた施政の課題だというふうに思っております。

今後、都市計画マスタープランづくりとして、3月30日には防災ということで、様々なご議論をいただいた訳ですが、それから5か月近く経った経過というのがございます。

今年度末の都市計画マスタープランの策定に向けて、是非、活発なご意見、ご議論というものを賜りたいと思います。

申し訳ありませんけれども、私、次の公務がありますので、少しだけいて、その後退席させていただきますが、宜しくお願いいたします。

【酒井都市整備部長】 続きます、4月に人事異動がございましたので、紹介をさせていただきます。

都市整備部長の酒井でございます。よろしくお願いいたします。委員の皆様におかれましては、昨年度に引き続きまして、よろしくお願いしたいと思います。

都市計画課長の西川でございます。

【西川都市計画課長】 西川です。よろしくお願いいたします。

【酒井都市整備部長】 都市計画課長補佐の畑野でございます。

【畑野都市計画課長補佐】 よろしくお願いします。

【酒井都市整備部長】 以下、担当も後ろに控えておりますので、よろしくお願い致します。お時間をいただきまして、ありがとうございます。

それでは、都市計画課長から、本日の委員会の成立の可否につきまして、説明をさせていただきます。

【西川都市計画課長】 昨年に引き続きまして、西川です。よろしくお願い致します。

先ず委員会の成立の可否について申し上げます。定数14名中12人の出席がございますので、委員会設置要綱第5条第2項の規定により、委員会の定足数を満たしておりますことを報告させていただきます。

本日の議題及び配布資料につきましては、お手元の次第をご確認いただければと思います。

報告事項（1）第4回策定委員会についてです。こちらは、前回の策定委員会でのご協議について、報告いたします。

報告事項（2）市議会及び都市計画審議会への中間報告についてです。こちらは、昨年度実施いたしました全体構想の中間報告について説明をいたしまして、市議会及び都市計画審議会からいただいた意見をまとめております。

報告事項（3）市民協議会についてです。こちらは、昨年度実施いたしました全体構想の協議会から、武蔵小金井、東小金井、野川と、各地域ごとのより身近な地域の課題を実際に地域にお住まいの方からいただく趣旨で開催しております。

議題（1）都市計画マスタープラン地域別構想の見直し素案についてです。こちらは、お配りいたしました資料4をもとにご議論いただければと思います。

その他として、今後のスケジュールをご確認いただければと思います。

配布資料は、資料1から資料4を事前配布させていただいておりますので、ご確認ください。不足がございましたら、事務局までお申し出いただきたいと思ひます。

それでは、ここからは委員長より委員会の進行をお願いしたいと思ひます。委員長、よろしく願ひいたします。

【大村委員長】 それでは、議事に入らせていただきます。

報告事項は(1)から(3)までございますが、事務局の方から報告をお願いいたします。

【西川都市計画課長】 報告事項(1)について説明いたします。座って説明させていただきます。

資料1「第4回策定委員会の会議録」についてです。

前回の委員会において、東日本大震災での経験を踏まえた今後のまちのあり方について、委員の皆様意見をいただいております。都市計画マスタープランや今後見直しを図る地域防災計画で対応できるように、関係各課と連携をとって参ります。その他、発言内容については、ご確認をお願いいたします。

報告事項(2)「市議会及び都市計画審議会への中間報告」について説明いたします。

【鴨下委員】 すいません。(1)のところちょっと聞きたいことがあるのですがけれども。

【西川都市計画課長】 はい。

【鴨下委員】 前回の委員会の議事録が載っているのですがけれども、前回、休みだったのですが、ちょっと1つだけ聞きたいところがあるのですがけれども、聞いていいですか。

【大村委員長】 どうぞ。

【鴨下委員】 9ページの東小金井のところの3・4・11号線のことを書いてあるのですがけれども、その下に準備会を云々あって、そこまでは良いのですがけれども、その後、歩道が3.5mずつできるのですが、というのと、車道が11mになるということが書いてあります。私もこの中の委員なのですがけれども、この時点では、これは決まっていな事だと思ひます。と申しますか、いまだに全然決まっていな事なのですが。

今の時点では、歩道を4.5mずつにして、車道を9mにしたらどうかという意見が一番有力なのですが、この時は決まっていな事と思ひます。

それと、もう1点、市長がいらっしゃるからお伺ひしたいのですが。

この道には、本当は中央分離帯をつくって、そこに桜を植えたいというのが第一の目標ですが、そういうのが全部カットされていまして、何が何だかさっぱり分からないのですが。

活字になってしまうと一人歩きしてしまうものですから。

【西川都市計画課長】 鴨下委員からのご指摘でございますけれども、9ページのところには、確かに都市計画道路3・4・11号線の道路幅員が、総幅員は18mであって、そこについての記録の中で、『両側に3.5mの歩道ができて、車道が11m』についてということで、これは私の方でそういうお話しをさせていただいたと思うのですが、未だ決まっていないということで、今申し上げた歩道が3.5m、車道が11mというのは、あくまでも一般論のお話しでありまして、確かに、当時は東小金井の地域のいろいろな方が集まったなかで協議会をつくられて、今まさに東京都と協議をされているところだと思いますけれども、協議中ということで、鴨下委員がおっしゃるように4.5mの歩道、9mの車道というのも申し上げれば良かったのですが、一般論といたしまして、18mの都市計画道路については3.5mとして申し上げさせていただきました。

それから、もう1点の中央分離帯につきましては、ちょっと細かいお話しになるのですが、前後ができあがっている道の中で、道路を設計・施行する東京都の考え方としては、その部分だけを中央分離帯にするということは、道路の流れからいっても危ないのではないかとということと、その中央分離帯にいろいろな大きな木、例えば桜を植えるというお話もあったかと思うのですが、それについては、車が走っている時に大きな木があると視距の確認がしづらくなるということが想定されるということで、中央分離帯については設置するのは難しいと東京都は考えていると聞いております。ただ、歩道については3.5mを4.5mに広げることは可能ではないかということで、地元の協議会と協議を進めているところだという認識でございます。

【鴨下委員】 だけど、結局、ここは都道なんだよね。結局、北多摩南部建設事務所が管轄なんですけれども、市の人が全然動いてくれないのが実情であって、いかにも「協議している」、「協議している」と言うんだけど、散々言って初めて北多摩南部建設事務所と話し合いをしてくれるようなもので、もうちょっと一所懸命やってほしいなと思います。

【西川都市計画課長】 ご意見ということでよろしいですか。

【鴨下委員】 はい。

【大村委員長】 よろしいですか。それでは、続けて資料2の途中だったかと思います。もう一度、お願いします。

【西川都市計画課長】 はい。報告事項(2)市議会及び都市計画審議会への中間報告について、説明いたします。資料2をご覧ください。

主な意見として、国分寺崖線を通る幹線道路や農工大通りなどの主要生活道路のあり方、地域コミュニティや地域中心拠点の整備、震災に関連して地域防災計画との連携したまちづくりの推進などを

いただいております。

これに対して、市としては次のような見解をもっております。

東大通り、都市計画道路3・4・11号線の南側については、中間報告では事業化に向けて検討を要するとしている。主要生活道路については、整備の考え方を示し、一方通行やハンプ、クランクなどを検討するとしているが、周辺住民の同意が必要であることから、実現化は検討を要するとしている。地域コミュニティについては、全体構想の基本方針6で地域コミュニティ形成を支援するため施策の展開を述べていること、地域中心拠点については、歩ける範囲での各種サービスを受けられるものとしており、地域の商店街等を核として検討を要すると説明しております。

続きまして、報告事項(3)市民協議会について説明いたします。資料3をご覧ください。

昨年度開催いたしました全体構想の市民協議会に引き続き、5月から7月にかけて3回の協議会を開催しております。開催の趣旨等については、1・2ページをご覧ください。3ページ以降で各地域ごとの参加者の意見をまとめております。図面上の色の区別でございますが、緑が活かしたい資源の記述、黄色が改善したい箇所、赤が前回の都市計画マスタープランの中で言及のなかった項目を示しております。

5ページが参加者意見のまとめでございます。横の並びは、現行計画の「環境」「安全・安心」「地域活力」を示していて、縦は上から「新たな視点の意見」「現行計画との類似意見」「現行計画で記載があったが、今回は意見が出なかったもの」に、それぞれ分類しております。

主な意見としては、市民協働でのみどりの管理体制づくり、災害時での幹線道路の迂回路や避難路の確保、新庁舎建設に伴うまちづくり等が挙げられております。

同様に9ページの東小金井地域では、自転車走行の整備、市の南北を結ぶ軸の形成等が挙げられております。

最後に13ページの野川地域では、生活拠点の分散化、市民参加のまちづくり等が挙げられております。

簡単でございますが、説明を終わらせていただきます。

【大村委員長】 今のご説明について、ご質問やご意見はございますか。

ちょっと伺っていてですね、資料2に対しての市側の考えを口頭でおっしゃられたのは、ちょっと分かりにくいですね。それは、ちょっとまずいと思うんですよ。文章で書いていただくか何かしないですね、ぱっと言われてもですね。しかも、ここに書かれている小金井市議会の全員協議会とかですね、それから、都市計画審議会も頭出しを1つ1つ見ていくべきだと思うんですよ。ちょっと、まとめ上げるとか何かされないと、何をご指摘されたのか分からなくて、しかも、市側がこれに回答

しましたと口頭で説明されても、皆さんお分かりになりましたか。分からないですよ。

限られた時間の中で、委員のみなさんに分かりやすいようにですね資料を整理していただかないと、私は不満なんですけれども。

それから、資料3に関しましても膨大な作業をされているのは分かるんですけども、これもまとめ上げた中で、どこがポイントか、例えば太文字で書かれるとか何かされないと、何がポイントになるのかというのが、多分、今日参加されている委員の方々はお分かりになりましたか。ちょっと、それは気をつけていただかないとですね。

【西川都市計画課長】 はい。

【大村委員長】 折角集まられた委員の方の意見を何う場ですしね、判断していただくという場なんですからね。ただ、資料だけを出して「市はこう考えております」と言われても、市のお考えが文章などで読めるようなものでないとですね、口頭で何ってもテーブルに置くことはできないですよ。それはちょっと、注意していただかないと困りますね。

【西川都市計画課長】 申し訳ございません。では、次回にですね、今のところを、再度ポイントを出させていただきたいと思います。

【大村委員長】 よろしいですか。他に何か。

資料をパッと見せられて、言われても、それは分からないし、それから、先程の鴨下委員のご発言もございましたけれども、今日、字の文でパッと会議録を見せられても。事前に送付されているから、皆さんお目通しされているかもしれませんが、やっぱり、その中でも重要な発言のところに関しては、少し『こういう意見がありました』というのは、事務局の方でまとめていただくのは筋だと思っておりますけれども。限られた2時間の中で委員の方々が効率的に議論するための資料整理をやっていただかないと、我々は何もなしに、市の説明で「それは結構です」とは、ちょっといかないと思います。

そこは、もっと注意していただかないと。折角の用意していただいた資料が活きないと思うんですよ。これだけをパッと出されても、皆さんに意見を求める際に、私も司会進行役として、なかなかできない話ですから、注意していただかないと困りますので、よろしくお願いします。

【西川都市計画課長】 申し訳ございません。

【大村委員長】 他に何か、事務局からございますか。

それでは、よろしゅうございますか。本日は報告事項をいただいたのですが、踏み込んで個別の議論をしていくような形には、ちょっと、うまく整理できないと思いますし、市側の西川課長の口頭でのご説明について、私は分かりかねない部分がありますが、これは次回、もう1回、今日のを踏まえ

て議論していただくなりしていただく必要があると思います。

市民協議会で市民の方々は、どの程度参加されたのですか。5月14日、6月11日、7月9日とありますが…、ここ（資料3）に出ていますね。

【西川都市計画課長】 はい、（資料3の）（2）のところに。

【大村委員長】 残念ながら、今までも出ていたのですが、市民協議会に関しては、逆にいえば少数の方にご参加頂いたわけですけれども、市民的な広がりがないというのが、ちょっと残念な話だとは思っています。

これを踏まえて、おまとめになった段階で、今回の都市マスの中でも、『記載がなくて意見が出されたものがあります』という整理は良いのですが、その中でも、我々がこれから議論する上で、これは重要じゃないかという論点はございますか。それぞれの地域ごとでも結構ですけれども。

【西川都市計画課長】 例えば、自転車走行空間の整備とかですね。車道での車両と自転車でのいろいろなことがございますので、走行空間の整備については、新しい視点で市民の方がみられたりとか。

それから、災害の時にどうしても幹線道路というのは、優先路線になってしまうのですけれども、その時の迂回路ですとか、市民が一時避難場所に行けるような道路の確保。または、避難所そのものの確保ですね。そういうことが意見として、新しく出ておりました。

それから、新市長が新庁舎の建設の場所を決定したわけでございますけれども、そこまで行くための道路や交通手段というところも、以前の都市計画マスタープランにはないようなことを、いろいろ意見をいただきました。

【大村委員長】 今日の資料4で内容については、市民協議会でのある程度の考えやご意見を踏まえて、反映されたものだと考えてよろしゅうございますか。

【西川都市計画課長】 はい。その通りでございます。

それと、委員長、すみません。端的に、資料3の2ページ目のところで、先程、市民協議会の参加状況がございましたけれども、その下の（3）のところに、「新たに出された主な事項」ということで、こちらの方で地域別にですね、武蔵小金井地域、東小金井地域、それから野川地域についての新たに出された意見というのを、こちらの方では簡単にまとめてございます。

【大村委員長】 はい。これを先にご説明された方が良かったかと思います。よろしいですか。他に何か。

【大村委員長】 それではですね、今日のメインのお話しになると思いますけれども、小金井市都

市計画マスタープラン地域別構想の見直し素案ということで、昨年のは前半期は全体構想という形だったのですけれども、今回は3箇所、武蔵小金井、東小金井、野川という、この3地域ごとについて、踏み込んで3地域ごとにやられたということだと思いますので、その見直し素案の事務局案について、市の説明を受けた後に審議していきたいと思います。

それでは、ご説明よろしく申し上げます。

【畑野都市計画課長補佐】 それでは、座ったまま説明させていただきます。パワーポイントを使って、説明させていただきます。

地域別構想について説明させていただきます。

地域別構想の地区区分ですが、平成13年度に策定された小金井市都市計画マスタープランの策定過程において地域別懇談会で検討された内容を踏まえ、JR中央本線武蔵小金井駅、東小金井駅と国分寺崖線により分けられる坂上、坂下の生活圏により、小金井市を「武蔵小金井地域」「東小金井地域」「野川地域」の3地域に区分しております。地域別構想を見直すに当たっては、当初の地域の区分分けの考え方を継承して、各地域別のまちづくりの推進を図ります。

初めに「武蔵小金井地域」から説明させていただきます。

武蔵小金井地域は、武蔵小金井駅を中心に概ね市の北西部に位置する地域です。この地域は大正15年の武蔵小金井駅の開設による交通利便性の向上や近代的な大量生産を目指した蛇の目ミシン工場の移転を契機に、駅付近を中心に住宅地が形成され、流入人口が増加し始めました。その後、太平洋戦争を前に貫井北町周辺に陸軍の技術研究所が建設されたことによる地場産業の発展や、昭和30年代の公社住宅や国家公務員住宅など、大規模団地の建設、また、昭和34年に武蔵小金井駅北口広場が整備され、駅周辺に金融機関や大型店舗が開店し、近郊都市型の商業街として発展してきました。

戦後の高度経済成長の一方で、急激な都市化により基盤整備が追い付かず、南口駅前広場は整備不十分のままとなり、JR中央本線を横切る小金井街道の踏切は「開かずの踏切」として有名になりました。現在、JR中央本線連続立体交差事業と併せた駅南口の再開発事業により駅前交通広場が整備され、バスなどの交通結節点となっています。

武蔵小金井地域における「環境と共生するまちづくり」について説明します。

武蔵小金井地域は、「みどりの拠点」として小金井公園、東京学芸大学、法政大学グラウンドを位置づけ、「みどりの大きな環」として玉川上水、新小金井街道、「みどりの軸」として小金井街道、JR中央本線を、それぞれ位置づけています。

みどりの拠点は、日常からレクリエーションができる大規模な都立公園である小金井公園と、市街地にあるみどりの環境を提供している大学として東京学芸大学、法政大学グラウンドを位置づけていま

す。みどりの大きな環である玉川上水、新小金井街道、みどりの軸である小金井街道、JR中央本線は、みどりの拠点や地域の核となる公園などを結び、みどりのネットワークを形成し、市民が安心して移動でき、歩行者等のネットワーク形成を図ります。みどりの環の他にも、地区の核となる公園として、本町第一公園、第二公園、浴恩館公園、小長久保公園など8公園を、市民が身近に自然と親しむ空間として利用促進を図ります。特に小長久保公園の施設充実を伴う拡張整備に向け、市民参加による計画検討や施設整備後の継続的な公園管理を行うための仕組みづくりを進めます。

続いて、「安全で安心して暮らせるまちづくり」についてです。安全で安心して暮らすためには、歩いて生活できる歩行者優先の日常生活圏を確立することが必要だと考えています。武蔵小金井地域の地域中心拠点については、武蔵小金井駅周辺を核として、京王通り商店街地区、緑中央通り商店街地区、農工大通り商店街地区を、日常生活に必要な各種サービスが揃う地域の拠点として位置づけます。

「地域の魅力と活力にみちたまちづくり」についてです。武蔵小金井駅周辺では武蔵小金井駅北口交通広場について、JR中央本線連続立体交差事業に合わせて再整備し、複雑で危険な歩行者動線の改善を図ります。また、北口の商店街区及び南口第2地区については、地元住民の意向を踏まえた地域の魅力や活力の発信源となる回遊性のあるまちづくりを検討します。JR中央本線連続立体交差事業により整備される側道は、武蔵小金井地域から東小金井地域にかけ6m～8mの幅員が確保されることから、主要生活道路として位置づけ、歩行者や自転車も安全で安心して通行できる道路として整備します。蛇の目ミシン工場跡地は新庁舎建設予定地として、行政サービスの中核となり、市民交流の場ともなる新庁舎を建設します。地域の顔となるまちづくりの1つとして、小金井街道は市を代表する道として災害に強く魅力的な道路環境を形成するため、整備が概ね完了した駅北側に続き、駅南側のアーケード撤去と併せて電線類の地中化を進めます。

武蔵小金井地域から東小金井地域にかかるJR中央本線連続立体交差事業については、踏切後の盤下げや南北新設道路の整備により、交通の円滑化・ネットワーク化を図ります。

以上が、武蔵小金井地域の説明となります。

【大村委員長】 各地域ごとで議論した方が良いですね。そうしましょう。

それでは、今、武蔵小金井地域についてのご説明がございましたけれども、委員の皆さま方、何かご質問やご意見や協議的事項があれば。

ちょっと1つお伺いしたいのですが、今日の資料で言えば8ページになると思うのですが、「環境と共生するまちづくり」の方針の中で、これはみどり系を中心に整理されていると思うのですが、小金井街道をみどりの軸として、新小金井街道の方はみどりのネットワーク系としていますが、この違いというのは、どういうふうな認識で描かれているか。あるいは、都市計画マスタープラン上で「み

どりの軸」と位置づけたところで、こういう施策展開を考えようとされているとか、描き分けの意味は何かございますか。

あとは、中央線の高架化に伴った側道のところを緑の軸としたいということだろうと思うのですが、この描き分けの意味合いとして、プライオリティーとかの位置づけが分かるようなメッセージが出せるものなのかどうかも含めて、お教えいただきたいのですが。

【西川都市計画課長】 「みどりの軸」と「みどりのネットワーク」ということなのですが、現行計画にも同じような形で、武蔵小金井地域（60 ページ）を踏襲した形で「みどりの軸」と、「みどりのネットワーク」を位置付けています。小金井街道のみどりの軸というのは、北は小金井公園から繋がっている1本の路線でございまして、こちらについては、ここを軸ということで南北については考えているということでございます。東西の中央線につきましては、中央線を軸の拠点として駅や周りのみどりを増やしていければということで、軸という形にしております。

「みどりのネットワーク」については、市の外郭の幹線道路、東は東大通り、西は新小金井街道、北は五日市街道（玉川上水）、それから南につきましては、東京八王子線（30m 道路）を街路樹やそれを拠点とする緑でつなぎ、大きなみどりのネットワークとして考えてございます。

【森田委員】 10 年前に計画した時には、例えば8 ページの地図をみていただきながら、5 ページの表（みどりの大きな環）というものを構成するようなみどりの線が五日市街道だったり、新小金井街道だったりしています。これで武蔵小金井地域の大きな外側を大きなみどりで環をつくりましょう、ということですよ。

それから、小金井街道とかJR中央線は、地域の中を貫いて、近接する都市とも連続して繋がる軸を「みどりの軸」として育てましょう、ということなので、地域の外側をぐるりと回るような緑のものを「大きな環」、それから、その中にも「小さな環」をつくりましょうね、それから近接するところで東西と南北のみどりの軸があると良いよね、そういうふうなイメージでつくったような思い出がありますけれども。

岡田さん、違ったでしょうか。

【岡田委員】 森田さんのおっしゃる通りなんですけれども、その辺りの経緯を話していても、言葉の文学的な表現に終始する感じがありまして、基本的には、この資料4でお示し頂いた内容というのは、非常に誠にごもつともなことで喜ばしいと僕自身は感じるとともに、以前から申し上げている5W1Hと言いますか、何時どのような時点で、どうやって、どのように進めていくかというのが、ここからは読み取れないというふうに思っております。都市マスという非常に大きな枠を決めるという意味では、これで良いのかもしれませんが、その大きな枠を決めただけでは物事が進まないという

のも現実ですので、ここで表現されていることが、もう少し具体的にどのように行動を起こして、あるいは、どのような手段で行われるかということイメージ・アビリティをもってとれるような表現手段と言いますか、書き方にしていただけると嬉しいと思っております。

例えば、6ページの日常生活圏と地域中心拠点の整備で、いろんな道路を、『交通量の多い幹線道路を境にして歩いて生活できる日常生活圏の確立を図ります』。誠にこれが出来ればもっとも良いのですが、『では具体的にどうやるの?』ということについては、少しも僕にはイメージが湧いてこなくて、何となく今まで通りの交通規制だけでやっていくのか、各道路を一方通行にすることによって、事実上、道路幅員を2倍にすることで日常生活圏が成り立つようにするのか。それで、次のところで『日常生活圏に必要な各種サービスの集積する地域中心拠点の整備を進めます』というのも、具体的にどうすると、どんどん廃れつつある個人商店が戻ってくるのか、そういう具体的な手段をイメージしないままに文章を書いていってしやる気がしてしょうがないものですから、その辺りをどのように考えて表現したかを伺いたいと思います。

【大村委員長】 事務局の方、何かございますか。

私なりの考えをちょっと述べますと、みどりの軸とみどりの環というものに対して、前回の都市マスを踏襲するのもよろしいかと思っておりますけれども、折角、都市マスを改定するにあたって、『元々、これは何だろうか』という、先程、岡田委員がおっしゃられましたが、小金井街道をみどりの軸という書きっぷりからしても、環っかのところも緑を強調したいとするならば、ちょっと小金井市とは別ですが、戦後の戦災復興として、仙台市とか広島とか名古屋などでは戦後何十年も経って、並木など全国から人を呼ぶような緑になっている訳ですけども、それを目指すことができるのか考えた時に、幅員16mの構成のところ、そんな立派なケヤキ並木などの街路樹を整えることはなかなか難しいとすると、少なくとも先程岡田委員がおっしゃられたように、商店街はある程度重きをもって緑を演出できるような作り方をすることを考えてみましょう、あるいは住宅の建て替えであったり、マンションの建設の際に、窓側や通りに面して花を植えたりとか緑を演出できるようなことを考えられないだろうか、などのそういうことを出されるべきだろうと思います。それから中央線沿線の側道の6mについても、大きな高い樹木はなかなか難しいとするならば、みどりらしさを演出するような手立ては何かないかなど、限られた資源と、今のご時世の中で道路を更に拡幅してということはできないとしたら、やはり沿道の方々の協力を得ながら、小金井市として重要なみどりの軸として育てていきたいのですから、皆さんが建て替えをする際の協力の仕方はないかなど、そこを考えないと、どうやって進めていくかが見えないのではないかと思います。

面的なものに関してはイメージがしやすいとは思いますが、具体的な公園がある訳ですからね。先程

の写真などもあったのですが。小金井街道については、場所によっては樹林が見えているところがありますよね。そうすると、『ここは実現している箇所である』とか『こちらのところで出来ないならどうしたら良いか』など、そういうものを出していただくと『ああ、そうなんだ』とういのが分かるような気がするのですが。

書かれている内容は結構だと思いますが、方針を受けてもう少し次に踏み込む。小金井市としての「みどりの軸」の表現として何があるのだろうか、ということをやらないと、仙台などと同じものを目指すことは出来ない。あそこの幅員と構成を考えても、100年かけても出来ないので、違う手立てを考えないといけないと思います。そういうことを、是非やっていただければと思います。

他にどうぞ、武蔵小金井地域で何か、『こういう点をもう少し、こう書かれたら如何ですか』というものがありましたら。

【相田委員】 3点申し上げたいと思っております、その内の1点だけ。

今日いただいた資料4の6ページの一番最後のところなのですが、防災関連については地域別構想からの記述を割愛し、全体構想に追記するということになっておりまして、このところを、どのように対応をされるのか教えていただきたいと思っております。

ただ、その前に、今日お話しするのではなく、恐らく2～3回前にしておかなければならなかった点を、私の反省を含めてお話ししておかなければならないのですが、多分大昔、これは大村先生にお伺いしないといけないのですが、私どもが都市計画を習った時には、都市計画にはエネルギー計画というのを教わらなかったのですね。上水道計画とか下水道ネットワークみたいなものは教わったのですけれども。エネルギーのネットワーク計画というのは教わらなくて、東電まかせ、東ガスまかせできたのですが、都市計画では今、スマートグリッドみたいなものが話題になっていますけれども、やはり、防災という観点からも、都市においてエネルギー・ネットワークがどうなっているかを、もう少し検証しておかなければいけないかと思っております。具体的に言いますと、照明というものは電力1本できているのですけれども、実はもう1つのエネルギー源となる都市ガスがあります。都市ガスには、この近辺ですと低圧ネットワークというものと中圧ネットワークという2つのネットワークが構成されているのですが、低圧ネットワークというのは地震があると遮断されてしまう。もう1つの中圧ネットワークというのは非常に地震に強くて、ガス管が180度曲がったとしても壊れない、非常に耐震性の高いネットワークになっています。この中圧ネットワークを利用して発電機を備えた施設をつくりますと、電力が停電したとしても、防災的にガスを燃やして発電できる、いわゆるコ・ジェネレーションシステム、CGSというのですけれども、これで停電に対する対応ができるということになっております。この近辺ですと、国際基督教大学（ICU）に中圧ネットワークがおそらくきているは

ずなのですが、そういった都市の防災性の観点から、もう1度、都市におけるエネルギー・ネットワークを二重化するような考え方というのを都市計画でも考えておく必要があるのではないかという思いがしております。

これは地域別構想の中では、もはや議論としては遅い話でしょうから、もっと前にしておかなければならないので、今回はあきらめざるを得ないのですが、今申しあげました6ページの防災のところ、議会の方でも議論がありましたけれども、防災拠点では電力に依存しないで一定程度のエネルギーを再生可能エネルギーだとか都市ガスのようなもので確保できる仕組みというものを、拠点機能としてもった方が良いのではないか。この辺りの記述が6ページの『全体構想に追記する』というところで、1つ気になったところです。やはり、電力だけではなくて、スタンドアロン型である程度自立するエネルギー拠点というものを都市マスの中で、拠点ごとに、今回でいうと3か所、武蔵小金井で1か所、東小金井で1か所、野川に1か所ずつ、そのような拠点性をもつということが、今後の検討課題ではないかと、このような印象です。

【大村委員長】 はい、ありがとうございます。重要なお指摘だと思いますので、何とか是非、あるいはさかのぼって全体構想の中に整理していただければ良いかなと思います。それから、エネルギー対応型の都市づくりも大きなテーマですし、今までの都市計画もあまり触れられていなかった課題だと思いますので、お願いしたいと思います。

【相田委員】 雑談ですけれども、森ビルには日本橋から外資系のテナントが移っており、ガスによるエネルギー供給ができるため、特に外資系は敏感に反応している状況がみられます。

【大村委員長】 そう言う意味で、今回、武蔵小金井地域には大きな大学がいくつかあるので、それを上手く地域貢献していただく中で、ここでは「環境と共生するまちづくり」の中で公共施設を位置づけて、みどりの拠点ということだけではなく地域拠点としての使い方など考えられるかと思いません。

地域防災については全体構想というよりは、身近な地域でどうあるべきかということを考える必要があるかと思えます。地域がそれほど大きい訳ではないので、こちらの人はこちらへ逃げて、こちらは別のところに逃げて、という話でもないと思いますが、地域としての防災のあり方というものを記述された方が良いのではないかと思います。

【相田委員】 新庁舎を市民交流の場としてしか書かれていなくなってしまうと思いますが、もう少し工夫して書かれても良いのではないかと思います。

【大村委員長】 新庁舎の位置づけは、図ではどこかに書いてある訳ですか。これは東小金井地域の方になるのですか。

【西川都市計画課長】武蔵小金井地域です。9ページの赤丸で、緑中央通りとJR中央線が交差する公共施設（行政サービス施設）の位置です。

【大村委員長】新庁舎は、先程、相田委員がおっしゃられたようにエネルギー拠点的な検討が重要かと思われまますので、考慮された方が良いのかと思います。

他には如何でしょうか。

細かい点で申し訳ないですが、6ページの中の「人にやさしい環境づくり」で、坂の名前が書かれていますね。こういう地域ごとに、地域の人に馴染みやすい環境資源というものを、地元の人は坂道名など名前をお分かりで利用されているのでしょうか。あるいは、市民の方々が歩いているところは標識などが整備されているのでしょうか。

【西川都市計画課長】全部ではないと思いますが、例えば平代坂というのが市役所のすぐ西側のところで“はげ”を下っていますが、謂われも書いておりますし、「平代坂」という名前も表示されております。

【大村委員長】それでも、それは全てではないのですか。

【畑野都市計画課長補佐】全てではないですが、概ねメインとなる坂にはついているとは思いますが。ただ、細い所とかもあるので、全てではないと思います。

【大村委員長】できれば、そういうのがどのようになっているのか、私は市民ではないので良く分からないのですが、そういうのは地域別構想の中では、サインとか案内システムとかを整え、地域が愛着を持てるような環境になるような仕掛けづくりを、あるいは、商店街でも岡田委員がおっしゃったように、実態がどの程度で、どこまでポテンシャルを持ち得るかどうかを含めて、整理された方が良いかと思います。

【相田委員】私の知っている範囲ではほとんど看板がなくて、時々書いてある看板を見る程度です。

【大村委員長】はい、鴨下委員、どうぞ。

【鴨下委員】私もこの地図をみて、みどりの軸とかは全然愛情が湧かないというか、もうあるじゃないかと思えます。既にあるのを、そのように位置づけているだけで、全然ピンとこないのですけれども。

それよりも、遊歩道みたいなものを整備するとか、これからもっと散歩をする人も増えたりとか、サイクリングしたりとか、そういう道で出来れば小金井公園を結ぶ道を整備して、周りの人たちも愛情を持って、手入れを手伝うとかくらいの方が余程良いと思うのですけれども。こういうのでも良いのですけれども、何か情が入っていないというか。

それも、もう1つが、例えば大きな木を植えて、その下にサツキとかを植えるにしても、大きい木は良いとして、小さい木を植えても良いのですが、そこが結局ごみ捨て場になったり、逆に動きづらかったりとかするので、その辺りを考えると、緑が多ければ良いということではなく、こういうことを考慮しておいた方が良いかと思います。

【大村委員長】 はい、ありがとうございます。

そうですね、地域別構想では地域の方が参加して、自分たちが愛着を持って環境をつくっていきけるような、人にやさしい環境づくりだけではない、自分たちでつくっていく環境づくりを考えることも必要かなと思いますので、よろしくお願いします。

他には如何でございましょうか。

はい、どうぞ、森屋委員。

【森屋委員】 「環境と共生するまちづくり」の武蔵小金井地域の地図をみさせていただいていますが、このみどりの環（みどりの拠点）のところは、防災の面で、例えば地盤の強度ですとかとリンクしているのでしょうか。多分、こういうところは避難所として皆さんが避難しますし。小金井街道はみどりの軸ということで道幅も広いですし、皆さんはそこを通ると思います。今回の震災もそうだったのですけれども、皆さん新宿の方から甲州街道や青梅街道を通過して帰路につきましたよね。その時のみどりの軸と地盤がリンクしていないと、見掛けだけ多少良くても、千葉のように液状化とかがあるのではないかと思います。そうであるならば、そういうものときちんとリンクしているのかなと思ひまして、お聞きしたかったものですから。

【大村委員長】 今のご意見について如何ですか。

【西川都市計画課長】 小金井自体は関東ローム層といいまして…。

【森屋委員】 関東ローム層が一番危ないと、この前テレビでやっていました。

【西川都市計画課長】 地表面の下から何 m も赤土がありまして、千葉のような埋立地ではりませんで、液状化はありません。素掘りといいまして穴を掘っておいても、ずっとその穴が保つような状況です。そうは言っても、大きな地震が来れば心配ですけど、比較的安定していると聞いています。したがって、今おっしゃられた小金井公園と東京学芸大学と東京農工大学の3つは広域避難場所になっておりますが、ここについての地盤はそれほど心配ないかと思ひます。

【雨宮委員】 今、関東ローム層のことをおっしゃっていたのですが、立川断層は大分問題になっているのですが、それについての行政側の認識については、どの程度把握されているのか、お分かりになるようでしたら教えていただきたいのですが。先程は大丈夫だと言われたのですが、絶対に大丈夫なのか、想定外なのか。

もう1点ですけれども、5ページの「安全で安心に暮らせるまちづくり」なのですが、災害時の井戸水の活用とありますが、小金井市には何か所くらいの井戸があるのか把握していますか。今度新しくできる新庁舎のところにも1つあるんですよ。それも活用すればどうかなと思ひまして。また、マンションの中にもあるのではないかと思うのですが。どの程度活用されるのか分かれば、教えていただきたいと思ひます。

【大村委員長】 事務局の方でございませうか。

【西川都市計画課長】 すみませう。本日、担当部局を呼んでおりませうので、立川断層の件につきましては、私の方でお答えできるところを持ち合わせておりませう。井戸の方につきましては、小金井の水道量全体の7割が井戸水を使つておりまして、後の3割が東京都からの水で、多摩川であったり荒川も一部入つてゐるようですが、そちらの水を東村山の浄水場から小金井の方に、直接ではないのですけれども、経路して水を引張つてゐる状況で7割が井戸水になっております。小金井市の井戸水というのは深井戸のために、100m～200m以上深く掘つた水なので、直接それが直ぐ災害の時に使えるかどうかというのには分らないのですけれども、雨宮委員がおっしゃいましたけれども、地域の中に昔使つた井戸を今も保存されて、それが防災井戸という形で残つてゐるのは、確かに何か所もございまして、今回の新庁舎建設予定地である中町におきましても1本ございませうし、この近くでは前原坂上交差点の東側に「黄金の水」という井戸がございまして、こちらはそれ程深くはないと聞いておりますが、今でも飲料に適してゐるような井戸もございませう。

市域で何本というのは、ちよつと確認をさせていただければお答え出来ると思ひますので、すみませう、調べさせていただきます。

【大村委員長】 はい、岡田委員。

【岡田委員】 個別の問題に関しては、伺へば伺へうほど、また深く掘り下げたくなる話ばかりだと思ひますけれども、都市マスのこの会議の場というのは、恐らく都市マスタープランに関わるまちづくりシステムをどう考えていくか、という議論をするべきというふう感じておりまして、各地区別の話にいきなりいつてゐるのですが、まちづくりシステムとして、行政サイドとしてはどうお考えで、どのように進めていこうかというふうなことを考えていらっしゃるかを確認しておきたいな、という気があります。

それから、前回、私は休んでしまつたのですが、まちづくりハウスのことを考えてくださつてゐるみたいなのですが、それも各地区別にまちづくりハウスをつくられるのか、小金井は地域が小さいので全体を統括するものとして1つだけで良いと思ひますのですが、その辺のイメージをどのように持つていらっしゃるか、あるいは、市内にいっぱい有能な人材がいらっしゃる訳ですが、その方々が実際

にまちづくりについて積極的に参加しようとしている時に、管財課とかが出てくると随意契約がなかなか出来ないとか、非常に専門的なノウハウを持っている人が出てくれば出てくるほど、特定の人物に利益誘導する形になるので入札しなくてはならない、などがネックとなって、人材を活かせないようなことが多いので、その辺りに関して、都市マスで書きづらい部分であるとは思いますが、視野に入れた表現をされるべきだと思っております、まちづくりシステムとしての地区計画との関連性のようところで、どうお考えなのか確認しておきたいと思っております。

【西川都市計画課長】 まちづくりハウスということで、今、おっしゃられたかと思うのですが、先ず第4次長期総合計画においても「協働の場づくり」ということの中で、協働支援センターというものを導入しております、そちらについては明確になっているものは、今の段階ではございません。場所とか所有の形態についても、いろいろ模索しているところでございます。

都市計画マスタープランにつきましても、協働支援センターの中の1つが良いのかどうかということも含めまして、まだ庁内の中でも議論はあるところでして、実際に担当の課はあるのですが、そちらでセンターのあり方について、市民協働であったりそういう形で検討委員会を立ち上げている、ということは聞いておりますので、そちらが実際に都市計画も含むものになっていくのかどうかは、今のところ分からない状況ですが、もう少し庁内でも調整を図り、検討していくこととなります。

それに併せて、市内の有能な方などの人材を視野に入れた形の表記もあわせてですが、もう少し検討していきたいと思っております。

【大村委員長】 時間の関係もでございます。後2つ残っておりますので、すみませんが、東小金井地域に移りたいと思っております。

【畑野都市計画課長補佐】 それでは、東小金井地域の説明をさせていただきます。

東小金井地域は東小金井駅を中心とした概ね市の北東部に位置する地域です。この地域には大正6年に設置された多摩鉄道、現在は西武多摩川線、新小金井駅があり、多摩川の砂利専用路線として運行され、昭和30年代頃までは引き込み線から東町一丁目付近の砂利砕石工場へ運ばれていました。その後、農地など武蔵野の面影を残していた地域に、昭和39年に地域住民の新駅設置請願運動により東小金井駅が開設されたことを契機として、急激に住宅地が形成され、現在の駅周辺部は十分な都市基盤が整備されないまま都市化が進みました。現在、JR中央本線連続立体交差事業とあわせた駅北口の土地区画整理事業により、駅前交通広場や道路、公園を確保して、基盤の整備を進めています。

東小金井地域における「環境と共生するまちづくり」について説明します。

東小金井地域は「みどりの拠点」として小金井公園、東京農工大学、法政大学を位置づけ、「みどりの大きな環」として玉川上水、東大通り、「みどりの軸」としてJR中央本線沿線等をそれぞれ位置づけます。

みどりの拠点は、みどり豊かな自然環境を保全し、市民が身近に自然と親しむ空間である小金井公園と、市街地にあるみどりの環境を提供している大学として東京農工大学、法政大学を位置づけます。みどりの大きな環である玉川上水、東大通り、みどりの軸であるJR中央本線はみどりの拠点や地区の核となる公園などを結び、みどりのネットワークを形成し、市民が安心して移動でき、歩行者等のネットワーク形成を図ります。

みどりの環の他にも、地域の核となる公園として栗山公園、梶野公園、東小金井駅北口土地区画整理事業で今後整備する（仮称）東小金井第一公園を、市民が身近に自然と親しむ空間として利用促進を図ります。

「安全で安心して暮らせるまちづくり」についてです。

東小金井地域の地域中心拠点については、東小金井駅周辺を核として新小金井地区、北大通り地区を日常生活に必要な各種サービスが集積する地域の拠点として位置づけます。武蔵野公園内にある暗く狭い坂や階段は、災害時の避難路として利用できるように、国分寺崖線と調和した、安全で安心して移動できる環境整備を進めます。

「地域の魅力と活力にみちたまちづくり」についてです。

東小金井駅北口は土地区画整理事業による市街地の再編を進め、拠点性の向上を図ります。区画整理事業区域内における公園整備は、梶野公園に続き、駅前に（仮称）東小金井第一公園を街区公園として新たに整備し、施設の充実を図るため、市民参加による計画検討や施設整備後の継続的な公園管理を行うための仕組みづくりを進めます。区画整理事業区域内で取得するまちづくり事業用地については、市民の意向を踏まえたまちづくりを進めます。JR中央本線連続立体交差事業を契機として、高架下にSOHO、駐輪場、（仮称）市政センターの整備を進め、あわせて魅力的な沿線まちづくりを進めます。地域活性化を図るための情報発信拠点として、東小金井駅南口の小金井市内産品のタウンショップ活用を図ります。小金井公園、武蔵野公園及び野川公園を連絡する東大通りは、広幅員を活かした道路づくりに向けて、周辺商店街との協働によるまちづくりの検討を進めます。

以上で東小金井地域の説明を終わります。

【大村委員長】 はい。今のご説明を聞いて、何かご質問やご意見はございますか。

みどり系については、先程出たご意見を参考にさせていただいて良いかと思えます。

【相田委員】 私はちょうど、東小金井のエリアを生活圏としておりますので、いくつか具体的な

話に入りたいと思うのですが、先程、岡田委員と鴨下委員からお話しがあったのですが、なかなか計画自体はあるけれども、実感としてしっくり落ちてこないというお話しがありましたが、1つはこのマスタープランの地域別構想をみても、人の顔をどうみるか、要するに人の目からまちづくりの計画をどうみるかという視点が背景にあって、それを説明していただくと分かりやすいのかなと思います。

具体的に言いますと、例えばまちの外の人が小金井公園へ行くのに、武蔵小金井駅を使うのか、東小金井駅を使うのか、市としてどちらを優先して誘導しようとしているのか、というのがなかなか見えない。もし、東小金井の方を優先して使うのであれば、東小金井に来る人をどうやって、駅を降りた時の姿を見せて、どうやって誘導していくか。そのプロセスのみどりをどう考えるかという整理があると、もう少し分かりやすいのかなと思います。今、小金井公園を例示にとりましたけれども、東小金井でいいますと、後、農工大と法政大に来られる方、これもやはり居住者とは違う属性の人たちになっています。東小金井駅を降りて農工大に行く時に、みどりのネットワークを、今の都市計画マスタープランで感じられるかという、なかなか感じられない。農工大学まで行ってしまうと良いですし、東大通りというところも、かなり緑のしっかりした道路なのですが、駅からそこまでのプロセスが貧弱な空間しかない。このマスタープランで、そのアクセスのところをどうやって整備して、みどりのまちを豊かに感じさせる工夫をどうするのか。駅を降りてから、どのルートを通ることを誘導していくのか。そこに、先程紹介されていましたが、まちのタウンショップというのがそれにリンクされているのかどうか。なかなか、そういった農工大とか法政大学に来る人たちへの“まちづくりの見せ方”というのが、上手くリンクしていないのではないかと感じております。

それから、野川公園などの居住者とか住んでいる人が感じるみどりで、これらのネットワーク、あるいは軸線といった時に、まちを使う人たちの属性によって、意識して絵柄を、結論は変わらないのかもしれませんが、そういった姿を背景に説明していただくと、もっと説得的で、ある部分情があるような計画に見えてくるのではないかと感じております。

3点目ですが、マスタープランをつくる時に、これは鴨下委員、岡田委員もおっしゃったことなのですが、具体的な方法論をどうするのか、なかなか具体的に見えない。例えば、東小金井から農工大に行く道路について、みどりの軸線の道路にしたら良いかという時に、例えばボンエルフ道路化にして、通過交通を排除してしまう。その際に、駅からいろいろなところに行く通過交通とかタクシーは、どういう動線で棲み分けをするのか。駅の高架下の側道を使って、市域外へ通過するタクシー動線を確保して、歩行者動線とは明確に分離する。こういった考え方が地区別構想の中でもう少し明確に出てくると、先程委員長がおっしゃっていたように、豊かなみどりにしていこう、などが見えてく

る。今は非常に狭い道路に農工大の学生が通り、商業交通の車が入り、タクシーが入りという格好になっているのを、地区別のマスタープランの中で誘導して分ける考え方がもう少し見えてくると、分かりやすいのではないかと感じがしております。

それから、これは前回も申し上げたのですが、東小金井にとって一番大きな課題が、駅の南口にある歯科大のグラウンドをどう位置づけるかというのがあって、今回の計画では、盆踊りなどで地区に開放しますと書いてありますが、まちとして、その空間をみどりの空間として、とりあえず10年くらい維持するのか、あるいは都市的利用として積極的に用途転換を図っていくのか。あるいは、その中間案として、半分はグラウンドとするが半分は都市的利用として転換するように働きかけていくのか。この基本的なスタンスは、民有地ですからなかなか言いづらいのかもしれないですが、少なくともその姿勢が感じられるような方針がみえると、『駅前はこの方向で行こうとしているな』というマスタープランの姿が見えるのではないかと、こういうふうな印象を持っております。以上になります。

【大村委員長】 はい。ありがとうございました。事務局の方から何かございますか。

この歯科大のグラウンドは、何か市と協議されているのですか。

【西川都市計画課長】 歯科大に確認したことがございますけれども、暫くグラウンドという形で、何かをするというところの話まではなさそうなのです。大学といえども私立の土地ですので、もっと具体的に何かをしていこう、というのはなかなか書きづらいかと思っております。

それから、武蔵小金井と東小金井の棲み分けというのでしょうか。優先とかいうものについては、小金井公園を例にとりますと、やはりCoCoバスが通っているのは東小金井駅になりますので、駅の名前の変更なども一時、市の方でも考えたことがありまして、その時には公園小金井というような駅前が挙がったこともあります。そういうことを考えますと、東小金井の方が形としては近いのかと思っておりますが、それを市として決定づけているものというのは、特にないというふうに思っております。

相田委員がおっしゃるように、農工大に行くまでの間というところにつきましても、東大通りはケヤキの木が、歩道と車道の上に植わっているところですが、かなり木が大きく成長しておりますので、緑陰も結構良くて、良い回廊になってきたとは思いますが、委員がおっしゃる通り、駅からここに行くまでにつきましても、特に方策を挙げておりませんので、本来ですと何か書ければ良いのかなとは思っておりますが、なかなか狭い1つずつの道につきましてもマスタープランの大きな方針の中で、位置付けるのは難しいと考えております。

【鴨下委員】 すみません。

【大村委員長】 はい、鴨下委員。

【鴨下委員】 先程の歯科大の話でくどくどと申し訳ございませんけれども、私が聞いた話では、こ

ここに書いてある『地域に開放し』というのは 100%ないと思います。盆踊りだけには、昔ながらのお付き合いで、特別に貸してくれるということで、地域に貸す気は更々ないとは思いますが、市の方がどのようにアプローチしているのかは分かりませんが、アプローチしてほしいのは、例えば災害時とか何かあった時にはグラウンドを避難所として使わせてほしい、ということは是非ともやってほしいと。そこを開放出来れば、とても良いと思うので、それをやってほしいなと思います。

それともう1つ。高架下の利用で、駐輪場云々と先程出ましたけれども、私の聞いている範囲では、駐輪場は駅からとてつもなく遠いところしかキープできないと聞いているのですが、その辺少し、お聞きしたいのですが。

【大村委員長】 如何ですか。

【西川都市計画課長】 歯科大の方のグラウンドにつきましては、意見として聞かせていただきたいと思っております。それから、関係課の方にもその旨伝えたいと思います。

高架下利用の自転車駐車場になるのですが、高架下利用はJRと東京都と沿線各市がそれぞれの市域について、ゾーニングという大きな枠の中で、利用方法を決めております。本市の延長は随分長いものですから、いくつかの区域に分けてそれぞれのゾーニングの中での使い方を1年以上かけて決めてきた訳ですけれども、自転車駐車場につきましては、1つは駅の近辺では、駅の周りのにぎわいとか南北の人の回遊性とかを考えますと、一定程度、自転車駐車場を離す必要があるのではないかとということの中で、現在、東小金井の西側につきましては、東大通り沿いのところから西側ということになりまして、東小金井の東側につきましては、未だ道路としては完成しておりませんが、16mの都市計画道路がけやき保育園のところに出来る訳ですけれども、その都市計画道路の東側からで、駅から申し上げますと250m~300mには入口が出来まして、側道があるようなところに設置ができるということでございます。武蔵小金井につきましては、同じく本町踏切のところから西側のところに自転車駐車場が出来る予定になっております。そこにつきましても、現在の改札口のところから250mくらいということで、300m以内に入口が出来るということで、現在、JRと協議をしているところでございます。

【鴨下委員】 今のお話で、東大通りよりもっと武蔵小金井よりとおっしゃいましたよね、駐輪場が。駅に行く方が自転車をそこに停めて、回遊性なんてある訳なくて。駅に行きたくてしょうがない訳ですから。それで、そういう遠い所に駐輪場をつくとどうなるかということ、結局、近い所に違法駐車を如何にするかということしか考えなくなると思うのですよ。だから、それは全然回遊性もないと思いますよ。ただ単に不便だけで、下手な話、そこから歩くだけでかなり距離がありますから、違法駐輪がまた駅の周りに増えるということなので、駐輪場は駅から近ければ近い程良いの

ですから、電車乗るのに皆さん1分1秒を争っている訳ですから、そんな所に停めないだろうし、なるべく近い所に行ってやるんだと思うので、それは回遊性という意味からは全然違うと思います。

【大村委員長】 他にいかがでしょうか。

【藤井委員】 3点ほど申し上げたいことがあるのですが、先ず1つは、先程の地域のところでも申し上げようかと迷っていたのですが、割と小金井市はコンパクトで、3つの地域に分けると、それぞれの地域の範囲というのが非常に小さい範囲になっていると思っております。例えば、今、話題になっている東小金井地域でも、横幅で1.5kmくらいで南北だと3kmくらいと、非常に小さい範囲のまちだと思うのですが、その中に3つの要素の中に、それぞれ重要な要素を盛り込んでいると、少し多いのかなという印象をもっています。全体的に3つ分けているテーマごとに、出来るだけ沢山盛り込もうとされているので、余計に強弱が付けにくくなってしまっていないかというのが、1点目の感想としてあります。これは、東小金井地域に限ってではなくて、全体の書き方のバランスという点で、少し考えられても良いかと思い、お伝えしたいと思います。

そういう観点から言いますと、2点目に入りますと、3つ大きく方針がありますけれども、「安全で安心して暮らせるまちづくり」で挙げられているいろいろな拠点のところと、「地域の魅力と活力にみちたまちづくり」の方針で挙げられている拠点というのが、違いが見ていて分かるようでわからないところがあるのかなと思います。場所は書き分けてあったり、駅前重複するところもあるのですが、文章をあわせて読んでいくと、「安全・安心」の方はおそらく地域にお住まいになっている方にとっての拠点を挙げながら説明をされていて、「地域の魅力と活力にみちた」ものは、外から来る人を意識して書かれているとは思いますが、例えば、ちょうど話題になっていたグラウンドの盆踊りみたいな話が、実は「地域の魅力と活力」の方に入っていたり、その辺の視点と言いますか、先程、人の目で見て考えるという話もありましたけれども、誰に対しての整備なのかということが、多少混乱があって、上手く棲み分けが出来ていないのかなという印象があります。もし、地域にお住まいの方中心を2番目の方針の方で書くのだとすれば、3番目の方は外からということ、少しそれを意識して書かれるとか、分ける方が良いかと思ったり、そうなってくると、おそらく外から人が集まるという場所は必ずしも都市的な要素だけではなく、公園というものでも人は集まる場所ですから、3つめのところにもう少し重要な人が集まる拠点として書かれても良いのかなと、テーマ別の何を対象としてやろうとしているのかというのを、上手く棲み分けて強調される方が良いのかな、というのが2点目として指摘させていただきたいと思います。

一番最後のところも重なるのですが、緑がこの地域の非常に重要な資源であるのですが、いろんな軸とかネットワークとか拠点という形で書いてはいらっしゃるのですが、書き方というよりも、今ま

で何度か議論があったように、整備をどうしていくかとか、どこまで整備ができているかとか、どこを保全するのかとか、そういうことが読み取れるような図面になっている方が都市マスとしては好ましいのかなと思っておりまして、緑をいろいろなタイプで沢山1つの地図だけで書くというのではなくて、今あるものとしての部分と、これからつくっていかなくてはいけないところというのが分かるような表現というの、少し考えられたらどうかと思いました。例えば、色の強弱をつけるとか。文章の中では、『これからつくっていきます』とか『保全します』とか書かれていますけれども、それと地図とは必ずしもパッと見た時に対応させて読み取ることが難しいので、文章で書かれている保全の部分と、つくりだす部分みたいなものを、図の中でちゃんと表現できる方が、今後の施策をどこに重点的に取り組むかとか、検討しやすくなると思いますので、ちょっと工夫をしていただければと思います。

【大村委員長】 はい、ありがとうございました。確かに、地域別の整備の方向性や、先程の写真の東大通りのように、みどり豊かで出来あがっているところと、これから整備していきたいところがあると、より分かりやすくなるかと思います。

他には、如何でしょうか。

どうぞ、稲村委員。

【稲村委員】 小ぢんまりとした小金井市を3つに分けて進めていくということは、良いことかなと私は感じました。本当に今、お話しあったように、もう既に小金井街道沿いには木が植わってある訳ですけども、そうしたものが、みどりの質というのですか、ただみどりがあるということではなく、外から来た方が小金井らしいみどりに楽しんでもらえるような進め方をしていけたらと思いますし、3つに分けたということで、地域に住んでいる方の要望とか広く意見を聞ける単位になったのではないかと思うので、そうしたことを進めていくことで、まちづくりに市民の貴重な声も上がってくるのではないかと思います。

【大村委員長】 はい、ありがとうございます。

他はよろしゅうございますか。

【大村委員長】 それでは、残っている1つ、野川地域について、説明をよろしくお願いします。

【畑野都市計画課長補佐】 それでは、最後になります野川地域の説明をさせていただきます。

野川地域は市の南側に位置し、概ね国分寺崖線の南側全域に位置する地域です。国分寺崖線は国分寺市から世田谷区まで続く崖のことで、永い時間をかけて多摩川が武蔵野台地を削り取って作りあげたものです。崖上には緑が帯状に連なり、数ある坂や湧水が湧き出ることでも有名です。この地域には、今から3万年以上も前に小金井で最初に人々が住み始めたと言われていています。明治から昭和に

かけては、政治家や実業家の別荘が広がっていましたが、現在では滄浪泉園などの緑地や公園などに受け継がれています。野川公園は国際基督教大学のゴルフ場を東京都が昭和 55 年に整備した公園で、隣接する武蔵野公園とあわせて、みどり豊かな小金井を代表する広大な自然資源となっています。この地域は小金井を代表する緑の資源が多くあり、市民の憩いの場所となっています。

野川地域における「環境と共生するまちづくり」について説明いたします。野川地域は、「みどりの拠点」として武蔵野公園、野川公園、多磨霊園を位置づけ、「みどりの大きな環」として新小金井街道、東八道路をそれぞれ位置づけています。

みどりの拠点は、日常からレクリエーションが出来る大規模な都立公園である武蔵野公園、野川公園、都立施設として多磨霊園を位置づけています。みどりの大きな環である東八道路、新小金井街道は、みどりの拠点や地区の拠点である公園などを結び、みどりのネットワークを形成し、市民が安心して移動でき、歩行者等のネットワーク形成を図ります。国分寺崖線や滄浪泉園などの自然環境や歴史資源を連絡して、歩行者を中心とした触れ合いの生まれる、歴史と文化の薫る地域のシンボルとして保全します。貫井神社、はげの森美術館などの湧水は、その維持に努めるとともに、身近に触れ合うことのできる小径の整備を進めます。野川は湧水状態の改善にあわせ、生物の良好な生息・生育環境を有する河川環境保全のため、自然再生事業を進めます。

「安全で安心して暮らせるまちづくり」についてです。野川地域の地域中心拠点については新小金井街道地区、小金井街道地区をそれぞれ地域の拠点として位置づけ、日常生活に必要な各種サービスが集積する地域の拠点とします。

以上で説明を終わります。

【大村委員長】 ありがとうございます。これについて、何かご質問、ご意見ございますか。

野川の自然再生事業は市がやられている事業ですか。

【西川都市計画課長】 野川の再生事業は東京都の建設局が行っている事業です。全国的にも、そんなに数は多くないのですけれども、東京都内では野川公園のこの箇所だけになりまして、大きくは釧路湿原の整備と同様の考え方の中で行っていると聞いております。

【大村委員長】 はい。全体的に『何々をします』『進めます』というのは、誰が主体なのか分からない場合がありますので、市が主体的にやる場合と東京都がやる場合とはちょっと違うのではないかと思いますので、市が責任をもってやりますという事業でない場合はどうするかとか、もっと市民の参画を得ながら進めていきたいとか、書き振りを工夫された方が良いと思います。

地域別構想の方針では、今のまちづくりの方向性というのは、行政側が行うには財源的にすごく限られている訳ですね。そのため、民間のいろんな業者に参画を得ながらやっていくとか、あるいは東

京都にやってもらうことに対して注文をつけてやっていくとか、実現に向けて誰が主体となってやっていくかを注意して書いていただければと思います。

どうぞ、森田委員。

【森田委員】 今の委員長の発言で、全体を通しての話なのですが、あくまでもまちづくりの基本方針ということですから、実行プログラムを作っている訳ではないので、今日拝見したところについては『整備します』とか『図ります』とか書かれています。マスタープランとしての基本方針であれば、例えば19ページの「みどりの資源の保全と活用」の最初に、国分寺崖線のことで『緑地軸として整備します』という記載がありますが、『緑地軸の実現を図ります』とか、そういうふうな表現にしておかないと、実行プログラムで整備主体は誰なのかという、今の委員長のご質問が当然出てきてしまうのです。ですから、多くの市民の共通認識や共有財産としてマスタープランを活用していくということであれば、市だけがやる訳ではなくて市民の皆さんにも協力を呼び掛けないといけないし、その時に市民を交えて『こういうマスタープランが出来ているから市民と一緒にやっていきましょう』と言うためには、『整備します』とか『進めます』とかの表現ではない表現で基本方針というふうにした方が良くないかと思えます。

【大村委員長】 はい、ありがとうございます。目指す方向性としては結構ですけれども、今、森田委員からご指摘いただいたように、誰がやるのかを読まれると、ちょっと苦しい話になると思いますので、是非、注意していただければと思います。

他には如何でございますか。

【相田委員】 1点よろしいですか。

【大村委員長】 はい、どうぞ。

【相田委員】 野川地域は私自身が日常生活というよりは、散歩等行くところなのですが、知り合いもいるもので気になる点が1点あって。先程、藤井委員の関係でも、3つの地域にこの地区だけが地域的なハンディを背負っている。要するに崖の下になっていてですね、豪雨の時や積雪の時の凍結時には、崖の上がり下がり非常に難しい。これは都市計画上、どうしようもない点なので、マスタープランの中で地域的なハンディをどうやって解消するのかというのを、方向性だけでも見えると良いのかなと思えます。

例えば、コミュニティバスで、そのようなハンディを解消させていくのかどうか、そういったものが見えると、この地区にとっては非常に、地区のハンディキャップを少しでもカバーするのではないかという印象を持っています。

それから、先程の東小金井地域とも少し絡むのですが、東小金井が小金井公園の入り口というのは、

私自身はちょっと反対でして、来街者を武蔵小金井に集中させて、ショッピングエリアと協調させて活性化を図る方が良くて、市の方のコミュニティバスで小金井公園に東小金井から持ってこようとするよりは、来街者は武蔵小金井駅に集中させて、活性化の拠点として武蔵小金井をする。東小金井は大学等に来る人を中心とした、静かなイメージのまちづくり。野川は生活する人たちの緑地であり、逆に言うとハンディを持った地域なので、それをどうやって地域で支えるか、といったストーリーが見えると良いのかなと感想を持っております。

【大村委員長】 はい、ありがとうございました。あと、全体的に何かご質問等はございますか。

どうぞ、鴨下委員。

【鴨下委員】 全体的な参加者の意見をみて思ったのですが、こんなに満遍なくみどりの整備をしなくてはいけなかな、というのが素朴にあるのですが。下世話な言い方で恐縮なのですが、お金がかかるじゃないですか、街路樹でも何でもきれいに保つするには。その費用がどのくらい掛かるのか分ければ教えてもらいたいくらいなのですが。何が言いたいかと言うと、費用をかけるべきところと、ここはいらぬのではない、というところとのメリハリをつけていかないと、「満遍なく」＝「何だか良く分からない、個性が無い」ということになると思うので、みどりはみどりで嫌だという人はいないと思うのですが、特にどここの何々は綺麗だよ、とか、先程言われていたようなことが必要だなと思うので、ここまでやる必要があるのかなと思うのですが。以上です。

【大村委員長】 はい。他には如何ですか。

相田委員が人の顔が見えないとかありましたが、他の自治体も含めて同じことだと思いますが、小金井の場合、確実に高齢化が進んできて、坂が多いようなところはモビリティの問題やハンディをもっているところは、高齢化に配慮してどのように整備を進めるかを考えることも重要だと思います。今日のデータの中でも、それぞれの地域の広がりや人口構成かということは押さえておきながら、やられた方が良かなと思います。

それから、冒頭の武蔵小金井地域は比較的大規模団地が多かったのですが、居住者の特定など何かを踏まえた上での地域別の方針というのが、他の委員のおっしゃることかと思います。地域資源として出されるのは非常に良いことだと思いますが、それも踏まえてもうちょっと命題を捉えると結構かなと思いますので、ご検討していただきたいと思います。

他には如何でしょうか。

どうぞ、森田委員。

【森田委員】 本日の資料の「地域の概要」というところで、歴史的な経緯を少し踏まえて書かれているのですけれども、出来れば都市計画を考えるということですから、対象の地区の面積が何 km²

であるとか、人口の推移で昭和 30 年には武蔵小金井地域には、例えば 5 万人だったけれども 45 年には 10 万人になったとか、それから学校教育施設の話がありましたけれども、中学校が何校で在學生が何人と。それが今年の 4 月 1 日現在とかですね。そういう具体的な数字を書いていただくと、多少地域の特性についての意見が活発になるのかなと思います。是非、次回はそのようにつくっていただければと思います。

【大村委員長】 ありがとうございます。重要なお指摘だと思います。是非、検討してみてください。

どうぞ、藤井委員。

【藤井委員】 1 点だけです。今日の資料の中で、ほとんど議論の対象になっていないのですけれども、2 ページ目、3 ページ目のところが地域別の構想の中に入っていて、ここは結構重要な話かなと思っています。どういうふうにきめ細やかなまちづくりをするかというので、制度の説明的なことが書いてあるのですが、これが地区計画と建築協定、地区まちづくり計画とテーマ型まちづくりと書いてありますけれども、これ以外にももっと市民の方と一緒にやっていくまちづくりのやり方がありますし、市民協議会の中でも『緑の維持管理みたいなのを一緒にやって行きましょう』などの話もありましたという報告があったりですね。もっと、規則的なことだけではなく、まちづくりというのは幅広いですから、地域と一緒に市民の方とやっていくようなことというのはあって、そういう話がここにちょっと書いただけで終わってしまうのか、全体の中でどこか、ちゃんと語られる場所があるのかが、今日の検討だけだと分からないのですけれども、市民の方の力をお借りしたり、活かすというところでは、きちんと書く必要があって、それは、地域別構想のなかでちょっと入るのではなく、全体のプランの中でどのように実現していくかというところで、前回でもまちづくりハウスをどう実現していくかという話があったように、今日も何回か議論があったと思うんですけれども、きちんと場所をとって議論していただきたいと思います。

【大村委員長】 はい、ありがとうございます。是非、今のご指摘は重要なお指摘だと思います。制度の紹介ということで、地域別でどういう展開していくかも含めて、冒頭の岡田委員の 5W1H の話もありますので。

どういうことが、可能性がありそうかということを考えられた方が良いかと思います。

予定の時間をもう過ぎているのですが、何か言っておきたい意見等はございますか。

よろしゅうございますか。

はい、岡田委員。手短にお願いいたします。

【岡田委員】 毎度伺っていて、話の進展がなんとなくじれったいというふうに感じておりますの

で、おそらく庁内に非常に専門性のある職員の方が少ないので、じれったく私を感じているんだと思うのですが、コンサルの方ももっと積極的なご意見をバックアップして、各委員がおっしゃりそうなことを先読みして表現して下さると、この場が活発化すると感じています。余分なことを申しまして、申し訳ございませんが、よろしくお願いします。

【大村委員長】 よろしゅうございますか。それでは、最後に今後の…。

【西川都市計画課長】 すみません。その前に1点だけ、震災の関係のお問い合わせの中で井戸のお話しがございましたけれども、そちらにつきましては、市内には市民の方が私設井戸をもっていらっしゃるしまして、震災対策用井戸として指定させていただいて応急集水をするために、小金井市に震災対策用井戸に関する要綱がございまして、その中で小金井市内34か所の私設井戸を使わせていただくことになってございます。大きなところでは、まちによって1つのところから5か所、井戸を指定させていただいているという状況でございます。

それから、中町の新庁舎建設予定地のところにつきましては、井戸の深さが250mということで、そちらにつきましては自家発電をもった井戸ということで建ててございます。その他には、震災対策用の井戸として、小学校に対策用井戸というのを設置しておりまして、飲料水や生活水の確保をするということになってございます。

すみません。これは先程の宿題でした。以上です。

【大村委員長】 はい。それでは、最後にその他ということをお願いします。

【西川都市計画課長】 最後にその他といたしまして、今後のスケジュールについてでございますけれども、策定委員会でパブリックコメントを向けた案を11月を目途に審議をまとめていただきまして、年内にパブリックコメントを実施したいと考えております。市議会の予定にもよりますけれども、パブリックコメントの前、10月上旬から11月上旬の、後2回程度、委員会を開催させていただくということになろうかと思えます。

日程につきましては、詳細が決まりましたら、また改めて委員の皆様にご連絡差し上げたいと思っております。以上です。

【大村委員長】 よろしゅうございますか。それでは、今日は長時間、ご議論いただきましてありがとうございました。

これで第5回のマスタープラン委員会をおわりたいと思います。どうもありがとうございました。